

収支の状況

(単位：億円)

区 分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
歳 入	195.56	194.46	194.70	192.59
歳 出	196.88	197.50	197.25	193.33
歳入歳出差引額 (繰越金除く)	▲ 1.32	▲ 3.04	▲ 2.55	▲ 0.74
繰越金支消額	1.32	0.63		
財源調整用基金等繰入金		2.41	2.55	0.74
財源措置後の収支	0.00	0.00	0.00	0.00

※項目別に四捨五入しているため、合計と各項目の合計値および差引額は一致しない場合があります。

期間中の全ての年度で財源不足が生じ、4年間の累積では7.65億円の赤字となる見込みです。年度別の財源不足額は、普通建設事業費が上昇する影響などで、平成23年度に最大となりますが、平成25年度には、退職手当の減額による人件費が減少する影響などから、平成22年度以下の水準となります。

本見通しでは、各年度に生じる財源不足額を、財源調整用基金などからの繰入金と繰越金の支消により補てんすることとしています。ただし、年度途中の緊急的な財政需要に対応するためには、繰越金を一定程度留保しておくことが必要となるため、繰越金の支消は残高5億円までを限度に行うこととし、残りを財源調整用基金などからの繰入金で補てんすることとしました。

財源調整用基金等と繰越金の状況

(単位：億円)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
財源調整用基金等	10.79	10.85	8.49	6.00	5.31
財政調整基金	5.24	5.25	4.05	2.79	2.43
減債基金(ルール外)	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
北海道市町村備荒資金組合 超過納付金	5.30	5.35	4.19	2.96	2.63
繰越金	6.95	5.63	5.00	5.00	5.00
合 計	17.74	16.48	13.49	11.00	10.31

※財源調整用基金など、繰越金ともに年度末残高の状況。

財源不足の補てんを行った結果、最終年度となる平成25年度末の財源調整用基金などの残高は5.31億円となり平成21年度末に比べ5.48億円減少する見込みです。また、繰越金は5.00億円となり、平成22年度からの4年間に平成21年度からの繰越金を1.95億円支消することになります。

財源調整用基金などの残高5.31億円と繰越金5.00億円を合計した10.31億円は、平成26年度以降の財政運営において、財源調整に活用できる市の貯金となります。

市債残高の状況

(単位：億円)

区 分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
市 債 残 高	250.01	240.20	230.37	221.14	215.12
一 般 会 計	249.94	240.12	230.29	221.07	215.06
学 校 給 食 事 業 特 別 会 計	0.07	0.09	0.08	0.07	0.06

※項目別に四捨五入しているため、市債残高の額と各項目の合計値は一致しない場合があります。

公債費が期間を通じて30億円台で推移するのに対し、市債発行額はいずれの年度も21億円以下にとどまりました。

この結果、平成21年度末に250.01億円であった市債残高は、見通し期間中の4年間に34.89億円減少し、平成25年度末には215.12億円となる見込みです。

今後の財政運営について

今回の試算では、平成22年度から25年度までの4年間に累積収支で7.65億円の赤字が生じる結果となりましたが、この赤字額は財源調整用基金などからの繰入金や繰越金の支消などにより補てんできる範囲のものであり、前回の見通しのように、職員給与の独自削減を含む大規模な財政健全化策を要する結果とはなりません。

しかしながら、期間中のすべての年度で単年度収支に財源不足が生じていることを考えれば、今後4年間も引き続き厳しい財政運営を強いられるであろうことは間違いありません。

今後は、これまで取り組んできた歳出圧縮や歳入確保の努力に加え、新たな基本方針などに基いて各分野にわたる不断の行政改革に取り組み、本見通しで見込まれた累積収支の赤字を可能な限り圧縮し、健全な財政を確保するよう努めてまいります。



『中期財政見通し』の詳細は市のホームページで閲覧できます
 トップページ⇒各グループのページ⇒財政グループのページ

問い合わせ
財政グループ
 ☎ 05 1331